野研びより

昆虫編　４号
野外生物生態調査研究部　昆虫班
２０１５年7月

図１．木花台にあるアパートで捕獲されたオオゾウムシ

オオゾウムシ(大象虫)　　*Sipalinus gigas*
コウチュウ目　ゾウムシ上科　オサゾウムシ科
体長：１２～２９mm
分布：日本全土
時期：５月～９月

体表は黒色に近い灰褐色であり、上翅に小さな黒斑がある[1)]。体表には凹凸があり、脚が長くがっしりしていて脚の先は、鉤爪のようになっている。この形態は木にしがみつく事に適していて、自分もこの写真のように手のひらに載せた後に持ち上げようとすると、爪が手に引っかかりゾウムシの体が固定され引き離すのにそれなりの力が必要だった。成虫はクヌギやヌルデなどの樹液、幼虫はマツ類を中心に広範囲の樹木の材部を主食とするため、森林・雑木林に生息し、灯火に飛んでくる習性がある。これらの食物と習性により、宮崎大学の周辺でもしばしば確認することができる。

【疑死】

図２. 死んだふりをしているオオゾウムシ[2)]

危険を察知すると、自ら落下して死んだふり（疑死）を行うのは他のゾウムシにも共通していることであるが、脚を広げたまま仰向けに転がるという大胆ともいえる体勢は、オオゾウムシの特徴である。

【体長】

日本在来のゾウムシの仲間には体長が 10mmに及ばない種が多く、大きい種でも最大 18mmといったところである。これに対し、本種オオゾウムシの最大体長は 29mmであり、群を抜いているといえる。

事実、外来種のヤシオサゾウムシが西日本各地に侵入するまでは、オオゾウムシが日本最大のゾウムシであった。

【謎】

オオゾウムシは、幼虫が林業の害虫として広く知られているにもかかわらず、産卵行動については未だにわかっていない。これは、飼育下で産卵させることが困難なためであり、現在も「木に穴を開けて産卵する」という説と「木の割れ目を探しそこに産卵する」という説がある。

参考文献

１）川邊　透, 昆虫探検図鑑１６００　　著者　　出版　全国農村協会
２）昆虫エクスプローラー　オオゾウムシ　　http://www.insects.jp/kon-zouoo.htm